

全国のみなさま

寒くなって参りました。お元気でいらっしゃいますか。

「奄美から辺野古への埋立用材調達搬出反対」の署名用紙を送らせていただきます。ご存じのように今春、政府は奄美大島での埋立て用材調達に向けた準備作業を始めました。

これを受け土砂全協は9月に顧問の北上田毅さんと2名の共同代表が奄美大島の各市町村を訪れて当会の要望を伝えました。10月には土砂搬出地に隣接する住用町の市集落と戸玉集落への聞き取りも行いました。この二つは30年以上も採石による生活環境、人体などへの被害を受けており、辺野古への搬出が始まれば一体どうなるのか？との切実な不安を口にしておられました（署名用紙参照）。豊穡で美しかった住用の海は土砂の流出によって、子どもが泳げない、魚介類が採れない海となり、海の専門家が「死の海」と評したほどです。

沖縄島の外から埋立て用材を持ちこめば、特定外来生物が沖縄島に持ち込まれるという生物多様性条約に反する問題を引き起こすことも懸念されます。

当会は、2015年5月に「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に奄美大島で発足しました。それは辺野古埋立てにいち早く反対した奄美ならではの問題意識の高さがあったからでした。防衛局は辺野古の埋立て土砂は大型ダンプトラック約350万台と試算していますが、今回の奄美大島からの搬出計画では「その3分の2に当たる約250万台」が調達可能という膨大さです。

軍事要塞化も進む奄美大島に、新たな脅威を持ち込む計画を何としてもストップさせましょう。辺野古埋め立てを止めるために署名へのご協力よろしくお願いいたします。

2024年11月20日

辺野古土砂搬出反対全国連絡行議会
共同代表 大谷正穂・阿部悦子